

(様式第4号)

介護保険運営協議会 会議概要

- 1 審議会名 上田市介護保険運営協議会
- 2 日 時 令和8年8月20日 午後1時30分から午後3時00分まで
- 3 会 場 _____
- 4 出席者 鳥羽委員（会長）、羅委員（副会長）柳沢委員、木島委員、倉澤委員、佐々木委員、土屋委員、中村委員、西山委員、古田委員、堀委員、山浦委員、横沢委員
- 5 市側出席者 長田福祉部長、西澤高齢者介護課長、高寺地域包括ケア推進係長、片山高齢者支援担当係長、小岩井介護保険担当係長、山田高齢者支援担当係長、富沢高齢者支援担当係長、小山高齢者支援担当係長、介護保険担当 小山主任、佐藤主事
- 6 公開・非公開等の別 公開 一部公開 ・ 非公開
- 7 傍聴者 1人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 令和8年8月25日

協 議 事 項 等

- 1 開 会（高齢者介護課長）
 - 2 あいさつ
 - 3 協議事項（会長の進行）
 - （1）第10期上田市高齢者福祉総合計画の策定について
 - ア 第10期上田市高齢者福祉総合計画の概要 資料1
 - イ 計画策定スケジュール 資料2
 - ウ 高齢者等実態調査の調査結果について 資料3
- 報告事項
- （1）上田市認知症施策推進計画について 資料4
- （事務局）
- 資料1、2、3について説明
- （会長）
- 質問およびご意見ありましたら挙手をお願いします。
- （委員）
- 介護予防という言葉がたくさん出てくるが、私達高齢者クラブは介護予防よりフレイル予防というものに重点をおいている。フレイル予防というのは介護予防のなかに含まれるのか、別のものなのか。
- （事務局）
- 介護予防のなかに含まれております。近年フレイル予防という言葉がうまれてきたが、介護になる状態の一步手前、虚弱な体力低下、足腰が弱くなってきた状況というのをフレイルと呼んでおります。介護予防もそういった方々を対象に介護が必要にならないようにという予防としておりますので、介護予防のなかのごく体力が落ちてきた直前の短い期間の方々をフレイルというような表現で呼んでいるが、大きくは介護予防のなかに含まれております。
- （委員）
- 含まれているということは一応分かりました。当事者にしてみると介護予防と表現される活動と、フレイル予防と表現される活動とはかなり違う。関わってる人たちもレベル、程度が違う。今後その介護者を増やしていく、健康寿命を伸ばしていくという意味ではフレイル予防は独立した活動として計画の中に盛り込んでいったらどうかと思う。
- （事務局）

貴重なご意見ありがとうございます。フレイルという言葉があるから、事業に参加しやすくなる面もあるかと思うので、使い分けをしっかりと考えながら、今後検討を進めてまいりたいと思います。

(会長)

他いかがでしょうか。

(委員) 貴重なアンケート、調査結果があるが、事前にお伺いしたところ、各個人で判断している人もいますが、日常のなかで医療に携わる段階になると、二人暮らしで片方が具合悪くなった時に、いわゆる共倒れということがあります。この調査票の中から特に二人暮らし、ご高齢の二人暮らし、なかなか家族の援助を受けられない者に関しては、お一人だけなんとかとなっても結果的にもう一人もとなるので、なんとか二人暮らしの方、特に家族の援助が少ない方をピックアップ、絞りだしてもらえたらと思います。今後検討していただければと思います。委員の皆様と策定していくが、せっかくなのでいい情報があるので、改善、やってあげたいこと、あるかもしれませんが、やはり限界がある。そのなかで上田市としてどのポイントに重点を置く必要があるかを、なにか他と比べてポイントを絞ってというのも一つの方法だと思うが、いかがでしょうか。

(事務局)

一つ目として、二人暮らしのご家庭。現時点では上田市の施策、高齢者という大きい枠のなかに埋もれていまして、お二人だけの世帯に向けた特別な働きかけをこれまで考えてきていない現状です。事業を進める中で、高齢の二人暮らし、一人暮らしになる前の段階のお二人の視点を置いたことを検討していきたいと思います。

他市との特徴ということですが、この 15～6 万人の規模でみますと、過疎地もあり、工業地帯ではなく、農業が盛んな場所と風土も同じような中で比べてみると大きな違いはありません。

ただ、今後考えていかなければならないのは、息子世帯の方々と一緒に住まわれていない、独居であり、二人暮らしの方々が今後ますます高齢化が進んでいくというのが、この統計の数字から分かります。その時に、一時的にもショートステイのような施設入所ができるような所を、もう少し増やしていきたい。2040 年にピークがくるということで考えていくと、これから新たに特別養護老人ホームのような大きな施設を作るのは、なかなか困難な状況であるということが考えられます。少し小規模だが、一時的に泊まりができるような施設も少し数を増やして、お二人暮らしでも少し休めるような期間を増やすとか、ショートステイ、プラスお泊りもできるような所を少し増やしていければ、増やしていく必要があると考えている。

(委員)

移動手段について介護タクシーを含めて、これから認知で免許がなくなる、認知で免許が取れなくなる人が増える。実現可能な部分があるというか、移動については特にやっていただきたいという思いがある。先々のことですが、お願いしたい。

(事務局) 移動支援の問題というのは、どこの地域も必ず課題に上がるベスト 3 には入ってます。昨年 1 年間かけ、神川地区で、高齢者介護課、政策企画課、市民参加協働推進課（補助金担当課）、交通政策課と 4 つの課で神川地区 13 自治会で、その移動支援の検討を一緒に一年間やってきた。住民アンケートを取って、どういう問題があるか、どうしてほしいのか、どんなことが考えられるのかというのを、集計を取って分析した。結果、上田市の補助金を使いながらタクシー会社を使った、タクシー料金の補助をしていくこととなった。当然自己負担もあるが、この制度で今年度事業が始まっております。13 自治会で人口規模が大きい、本当に困っている方を限定しており、今利用者が 70 人くらい。どんな方々かというと、家族、娘息子と同居していない人、ご夫婦の場合、どちらかが運転免許を持っている方、それから介護保険を使って必要最小限のサービスを受けられている方、こういう方は除外している。そうすると、80 半ば近くまで免許証を持っている方は対象にはなりません。どうしても運転できなくなってから、介護保険を使うまでのわずかな期間、数年間はどうしても交通が必要になる。もしくは免許を持っていた配偶者が先にお亡くなりになり、残った配偶者だけが残されているところが非常に困る状況である。そういう方々が 13 自治会で 70 人くらい。その地域によって状況が違っているので、まずその地域がどんな状況で困っている方々がいるか実態を把握した時に、初めて交通政策が必要だなと自然と見えてくるというようなことを、市の方でも一緒に考えて実感したところ。今後、各地域のなかで一緒に問題解決のための検討を進めていただければ、大変ありがたいと考えている。

(事務局)

資料 4 について説明

(会長)

質問およびご意見ありましたら挙手をお願いします

(委員)

推進計画で、共に生きると書いていますが、大前提として例えば身体にハンディ持っている方は見かけても分かるので、手を差し出すや、荷物を持ったりなどできるが、認知症の方も共生ということは必要だが、どなたが認知症なのか分からないことが地域のなかで生きてくうえで、一番根本的な問題ではないか。本人言いたがらない傾向が強いと思う。きれいごとをかいてはあるが、なかなか対応は難しいのではと思っていますが、そのところについては、計画のなかではどんな対応をしていくのか。

(事務局)

資料の 16 ページをご覧ください。認知症の問題は、ほぼ人権の問題とイコールだというふうを考えています。(5) 公民館自治会懇談会という新しい認知症観から考える人権というのを、令和 7 年度から取り組みを始めましたけども、このなかの講座の中身の半分くらいは人権にほぼイコールの話になっています。これまでの人権の取り組みの歴史を考えてみますと、一年や二年でそういった差別や、そういった考えを薄れていくのは、なかなか難しいというのを、われわれは経験してきています。おそらく、この新しい認知症観というのが市民の半分以上になるのは、1、2 年ではない。5 年 10 年かかるようなスタンスで取り組んでいかなければならないと考えております。地道な活動かもしれませんが、小中高生含めて若い世代、それから現在自治会活動をされているような高齢の方々も含めて、新しい認知症観をいうのを広めていくような取り組みを、毎年毎年続けていくことが、とても重要であると考えております。

認知症の方と初めて会って会話をすると、ほぼ認知症だということは分かりません。少し話して、5 分 10 分話すと違和感が出てくるというような状況がありますけど、例えば、自分からシールを貼って、私認知症の者ですが、という行動はおそらくできないと思います。一つの取り組みとして、前のページの 15 ページにあります認知症サポーター養成講座というものを受講していただきたいと考えております。認知症の方だと気づいた瞬間に、その人に対するわれわれの取り組みや態度、どんなことをしてあげたいのかを、まずは知っていただく、知識を持っていただくというのが、重要であると考えているので、認知症サポーター養成講座をたくさん開催して、多くの人に 2 回でも 3 回でも繰り返し受講していただいて、認知症に対する知識をしっかりとっていただける取り組みをしっかりとやりたいと考えております。

(委員)

先ほどのアンケートで、地域包括を知らない、何かあった時の窓口として地域包括があることをあまり知らないという結果が出ているが、フレイルという言葉や認知症についても、まだまだ他人事になっていると感じる。 実際知っている者は、フレイルが 2 人に 1 人だったり、認知症は 5 人に 1 人、だれもがなる可能性があるというくらいの現状だとは思うが 我がことのように皆さま考えていかないと、いろいろな施策や地域でもって支えていくということに繋がらないと思う。

地域包括も非常に業務がある中で、優先順位を決めて、認知症の方を皆さんが知る機会ということにもう少し力を入れていただきたい。

(事務局)

広報について、なかなか市民の方全員には届かないのは、われわれ熟知たる思いもございまして、なかなかうまく伝わりません。これは高齢者施策に限らず、上田市の事業、イベント、お知らせについて、さまざまな手法、ホームページ、メール配信、広報うえだを配布したりとやっておりますが、みなさんに十分だと思えるほど伝わっていないのが現実としてあります。気を付けているのは、困った瞬間にすぐ相談ができる場所が分かるようなことを考えていかなければならない。市の窓口、包括、地域センターの窓口であったり、できるだけ困った瞬間にどこに問合せをしていいのか、どういうことがあるのか、情報がすぐ伝わるようなことに気を付けて、パンフレットを配置したり、ホームページを作りこんだりしておりますが、こんな方法がいいよといったアイデアがありましたら、ぜひいただければ、われわれも取り入れて、周知に力を入れていきたいと考えております。

《会長》

ありがとうございます。これで協議事項は終了しました。

* 会議概要は原則として公開します。会議終了後、1 週間以内に行政管理課へ提出してください。

* 非公開及び一部非公開としたものについては、その理由を記載してください。